下新庄地域まちづくりワークショップ議事概要

日 時：令和６年 11 月６日（水）19:00～20:45　場 所：下新庄老人憩の家
出席者：29 名（地域 16 名、区役所７名、社会福祉協議会１名、コンサルタント５名）

【議事】

1　下新庄地域ごあいさつ
2　参加者の自己紹介
3　これまでの振り返りとこれからの取り組み
4　ワークショップの趣旨説明
　※「子ども達のための安全安心で明るく楽しいまちづくり」について、いまできること、将来に向けて取り組んでいくことを考える。
5　ワークショップ
6　次回ワークショップのテーマ

≪配付資料≫
・「まちづくり構想」
・「広報ひがしよどがわ 11 月号特集ページ」
・淡路駅エリア計画関連資料

≪開催時の写真≫

1. 下新庄地域ごあいさつ

・バリアフリーまちづくり協議会部会員で下新庄地域活動協議会会長の生島さんから、子ども達を地域のみんなで守り、健全に育成していくために、前向きに具体的に意見を出し合ってほしいというごあいさつがありました。

2. 参加者の自己紹介

・参加された皆さんから、氏名、所属団体等の自己紹介がありました。

3. 趣旨説明

・今回のワークショップは、阪急電鉄の高架化が具現化しはじめた現在の時点での「子ども達のための安全安心で明るく楽しいまちづくり」をテーマとして、地域での不安や懸案事項について、地域

や行政、事業者、個人がそれぞれの立場でいまできること、将来に考えることについて、意見を出し合い、結果を整理して可視化することが目的との説明がありました。

・今回のワークショップで出てきた皆さんの意見を、特に以下の４つに分けて整理する予定です。

1. こどもの安全を守る。（交通（通学路、道路等）と防犯）
2. こどもの孤独を無くす。（個食・孤食、居場所等）
3. 子育ての悩みを支援する。
4. 地域行事を継続させる。（地域行事は孤独を無くす機会となる。）

4. ワークショップ

---

(1)「こども」について

・配布資料について、区役所から説明を受けました。

・地域の白地図に、各項目に該当する色の付箋に、参加者の関心事項を記述して貼り付けていき、出された意見について参加者で意見交換等を行い、最後にまとめを行う手法で行われました。

＜ワークショップで出た主な意見＞

・前回の「防犯」の時にも話したが、下新庄小学校の前の交通安全について、どのように警察や行政に陳情すればよいのか。

・ここ 17～18 年ほど、登校時の見守り活動を週１回からスタートして、各団体が分担し、地域全体でずっと立つようにしている。町会員に声をかけたりして、若い人たちにも加わってほしいと思っているが、担い手が少なくなってきている。最初は「おはよう」と声をかけづらかった人もやってみると子ども達から逆にパワーをもらえて嬉しかった、やってよかった、という感想を聞いている。

・例えば、「この子はいつもと様子が違うな、何かあったのかな」といったように、子ども達の見守りをしていると、ずっと続けているから見えること、わかることも出てくる。

・日々あいさつを繰り返していると、子ども達のほうから寄って来てくれるようになる。子ども達からラブレターやプレゼントをもらったこともある。学校へ行くのがしんどい時、心の悩みがあるときに救われた、という子もいた。

・ＰＴＡなどの保護者の活動についても、最近はフルタイムで働く母親も多く、昼間の活動に参加することが難しい、参加できない・学校へ行けないことが申し訳ない、申し訳ないと感じることも負担になっている、例えば、ベルマークの回収など、やっている意義が分からない、といった声を聞く。昔に比べれば保護者の活動は減ったと思うが、疑問や負担に思う人、余裕がなく、葛藤している人、そもそも無関心の人など、現役の保護者にも温度差がある。

・子どもが成長すると、習い事の送迎や受験など、ますます忙しくなる。自分の子どもが卒業したら、ますます地域の活動に参加しないのでは。

・余裕がない人はいったん休憩してもらって、別の人がカバーできるとよい。

・（前回のワークショップで話題になった）防犯カメラを実際に公園で正常に作動していることを確認してきた。地域住民として設置箇所を知りたい、もっと地域の中に増やしていきたいと思った。

・まちなみが古く、街灯不足で暗い場所もある。
→（コンサルタント）防犯カメラの設置費用やメンテナンス、更新費用などの課題はあるが、犯罪抑止効果も期待できるため、設置箇所に関する情報を地域で共有するのもよいかもしれない。
・最近、延原倉庫から北公園の間の一方通行の道路を逆走している車を何度か見かけた。狭くてすれ違えない道路なので、事故があっては困る。ローソン前に何台も駐車している。警察に相談しているが、駐禁で取り締まることも難しいとのこと。見通しが悪く、子どもが飛び出してきても見えないので危ない。
・コロナ以降、子ども達の居場所づくりとして、カレーを提供（一人 100 円でおかわり自由）している。道路の安全を見守るスタッフがいてくれるため、子ども達に食べさせることに安心して専念できる。
・30 年以上、年 1 回校庭で「ミニキャンプ」をしている。参加する子ども達は 180～200 人、ボランティアのスタッフを含めると 300 人位になる。毎年校庭で材料を切ったり米を炊くところからカレーを作っているから、災害時にも役立つだろう。
・25 年以上「サマフェス」も開催している。よそから引っ越してきた人は、驚いたり、「いい地域行事ですね」と言われる。サマフェスで店を出したり、売り上げナンバーワンを目指したりする活動のなかで、親も知り合いや仲間ができる。
・参加する人も運営を手伝ってくれる人も笑顔で楽しめる、長年続いている地域行事は、みんなが喜んでくれる。こうした活動が、地域のつながりになる。
・今話題になった活動やイベント以外にも、既にやっていることはたくさんある。子ども達の笑顔のために、こうした地域の活動をいかに今後も続けていくか。
・子どもの数が少なくなり、地域行事をやめていっているところもあると聞く。全国的にじわじわと地域の力が弱くなっている。地域の活動を今後も継続していかなければならないと思うが、次の若い人達にいかにバトンタッチしていくかが課題。
・町会の会員に子育て層が少ない。地域の活動やイベントの（運営側の）担い手が不足し、災害時に子ども達が逃げられない懸念もある。共働きで近くに実家がない人も多い。
・地域外から引っ越してきた人が、どうやって地域に溶け込んでいけるか。子育て情報など、地域の情報にたどり着く方法がない。
・普段から近所づきあいがない人に対しては、災害時や子育てなどで困っていても気づけない。
・最終的には、人と人とのつながり。冬のイルミネーションなど、普段から、楽しい場（町内や公園など）で互いに知り合いを増やし・広げ、いざ災害が起きた時には助け合えることが、災害に強いまちになる。

(2)「淡路駅エリア計画」について
・区役所からまちづくり構想部会の議題となっている「淡路駅エリア計画」（阪急高架下利用や柴島浄水場跡地開発）について、説明がありました。

＜主な意見＞

・平成 28 年に「東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会」を立ち上げたとき、阪急電車の高架化になってからの西側のエリアのまちづくりについて考えるということで長い間やってきた。それとは別なのか？

→（区役所）もとは同じだが、国・府・市のほうでも検討が始まり、ようやく動き出したということである。

・以前、区政会議に出席したとき、区全体でいうと「西部地域だけの話でしょ、こっちは関係ない」という意見の人もいた。昔「赤バス」が走っていた時のように、無人でバスを走らせて区内をつなぐとか、人がどのように移動するのかといった移動手段や仕組みもあわせて議論した方がよいのでは。そうすれば東エリアの人も便利になると思う。

→（区役所）20 年後には自動運転のモビリティも実現しているかもしれない。

・おおさか東線については高架化されず、今後もそのままなのか？結局、下新庄地域は分断されたままなのでは。

・淡路駅周辺は大きく変わるが、下新庄地域は線路に囲まれて閉鎖的なままなのでは。だんじりや大型トラックが地域内に入れない。

・高架化といっても、阪急の岡町～曽根駅間のように、高架下がフェンスのままで行き来ができないようではいけない。広く抜けるような整備をしてほしい。

→（区役所）現在の線路は側道として整備される。踏切は道路になり、高架下にも公園などのオープンスペースやいろいろな施設も計画されることになるだろう。高架下を行き来ができるようになるのではないか。

・踏切がそのまま道になっても、勾配が急過ぎて、高齢者は通れない。なるべくフラットにしてほしい。

・毎回出ている意見だが、地域の集会所の機能を一つに集約した場を新たに整備してほしい。（高齢者や子どもなど、行政の所管課が異なるだけで維持管理なども違っていて、地域は困っている。）

・柴島浄水場跡地は甲子園３つ分の広さ。どんな施設や機能があれば、行ってみたくなるか？

5. 次回ワークショップのテーマ

・次回ワークショップのテーマは、「高齢者」とする。

以上